

平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

1. 教科別学力状況

国語 A（知識）

小学校 6年生

話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の 4 領域とも正答率がよく、特に読むことと伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域については、よく理解できている。

中学校 3年生

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの領域は正答率が高く、問題に対して意欲的に取り組んでいる。

言語についての知識・理解・技能に課題がある。

国語 B（活用）

小学校 6年生

目的に応じて質問したことを整理する設問は、よくできており、話す・聞く能力がついてきている。

中学校 3年生

全体的に基礎的・基本的なことは理解できており、情報を読み取ることや文章の内容理解、自分の考えを書くことに力をつけてきている。

算数・数学 A（知識）

小学校 6年生

数と計算はよくできており、基礎学力が少しずつ定着している。

量と測定の領域に課題がある。

中学校 3年生

全体的に基礎的・基本的なことは理解できており、意欲的に取り組んでいる。

基礎的な知識は十分に理解し、技能の習得はできている。

問題文を読み取り、事象を数学的に表現し、意味を解釈する力が弱い。

算数・数学 B（活用）

小学校 6年生

数と計算・量と計測・図形・数量関係の 4 領域とも理解できている。

記述式の問題に対して苦手な児童が見られる。

中学校 3年生

全体的に基礎的・基本的なことは理解できており、証明などの記述式の問題にも自分の考えをまとめ、整理して書くことができている。

関数の領域で、グラフの意味やグラフを活用して考察する力が弱い。

2. 学力状況に関する今後の取組

小学校 6年生

国語

文章で書くことを意図的に取り入れた授業を行い、底上げを行う。ドリルなどによる反復練習を行い、基礎的な知識の習得をさせていく。

読む力をつけるため、日頃から読書時間を確保し、読書量とともに読書の質を高めていけるようにする。国語の学習だけでなく他教科でも、報告文や感想文などの目的や条件に応じて様々な文章を書く機会を充実させていく。

算数

算数の時間だけでなく朝の活動や家庭学習のドリル学習をより充実させる。身近な生活から出題し、自主的・自発的な学習を促し、思考力・判断力を高める。

授業の中で考え方や根拠をノートに文章化し、全体で伝え合う学習を組み入れる。また、聞き手に分かるよう筋道を立てて話ができているかどうかを評価し、改善していく。

中学校 3年生

国語

語彙が増えるよう、言語についての学習を確実にしていく。また、生活記録の充実を図り、諸行事後の感想などを書く機会を設定する。

さまざまな文章を読むことや、資料をもとに自分の考えを持ち表現する機会を持たせる。各教科を通して、記述式の問題に粘り強く取り組ませる。異年齢の人とのコミュニケーションにより、人間理解を深める場が持てるよう家庭への働きかけをする。

数学

基礎的な知識・理解について、既習内容の振り返りを行う。表現の複雑な文章問題に多く取り組ませたり、大切な数量にアンダーラインを引かせるなど、問題文の理解に重点を置いた指導を行う。

関数の領域において、式・表・グラフの関係を正しく理解させる指導を継続する。自分で考えたことを文章で表現したり、発表したりする機会を多く設ける。

3. 児童生徒の学習状況調査（児童生徒が学校や家庭での学習や生活の様子について答えたもの）

小学校 6年生

規則正しい生活を送っている児童が多く、また、自尊心が高く、自分自身や学級の仲間とともに物事をやり遂げたことに成就感を感じている児童も多い。将来の夢を持っている児童も多く、教師との信頼関係もできている。話合い活動に関する事項は比較的よくできている。

家庭での学習の時間や読書時間が少ない。読書が好きな児童は多いが、図書室や図書館を利用している児童が少ない。また、新聞を読む児童も少なく、原稿用紙に3枚程度の文章を書くこと、自分の考えを他の人に説明したり文章を書くことが難しいと感じている児童が多い。

中学校 3年生

家庭生活では、規則正しい生活習慣が身についている。また、規範意識が育っており、自分のよさに気づいている生徒が多い。

学校生活では、学級や行事で成就感が味わえており、学校の規則も守られている。多くの生徒が将来の夢や目標を持っており、教職員が自分の良いところを認めてくれていると感じている。

学習面では、数学への関心が高く、問題に対して粘り強く取り組もうとする姿勢が感じとられる。また、国語、数学、総合的な学習の有用性を感じて授業に取り組んでいる。

友だちの話聞ける生徒が多く、友だちの思いを理解し、役に立ちたいと考えるが、友だちに自分の思いが伝えられない生徒がいる。

新聞を読む生徒が少なく、ニュース等はテレビやインターネットから入手する生徒が多い。また、読書の好きな生徒は多いが、授業以外での読書時間は少なく、図書室や図書館の利用は少ない。

家庭学習で宿題はできているが、授業の予習・復習はほとんどの生徒ができていない。

授業のはじめに目標は示されたと感じている生徒は多いが、振り返りの時間を取っていたと感じる生徒は少ない。

4. 児童生徒の学習状況に関する今後の取組

小学校 6年生

生活時間の改善を図り、『家庭学習の手引き』をもとに、学習時間の確保や内容を充実していけるよう、保護者に繰り返し呼びかけていく。

読書タイムを確実に確保するとともに、休み時間に図書室を利用するよう呼びかけて行く。

毎日の日記指導を充実させ、自分なりの考えや感想がもてるよう指導していく。

中学校 3年生

全ての授業で『めあて』や『振り返り』を位置づけ、基本的事項の定着を図りながら、複合問題に慣れるよう練習を重ね、家庭学習につなげていく。

家庭での過ごし方をイメージする時間を持ち、計画的に時間を有効に使えるよう呼び掛ける。

図書室前に新聞やおすすめの本を置き、活字を読む機会を増やす。機会をとらえて読書のおもしろさを伝える。